



# 養父市

# 議会だより

vol. **21**

## 日本の滝100選『天滝』

美しさと迫力、元気のビタミン(マイナスイオン)を求めて  
いま人気のスポットです。

平成21年5月15日発行  
編集/養父市議会広報特別委員会  
発行/養父市議会  
〒667-8651 養父市八鹿町八鹿1675  
TEL 079-665-6800 FAX 079-665-6801

### 目次

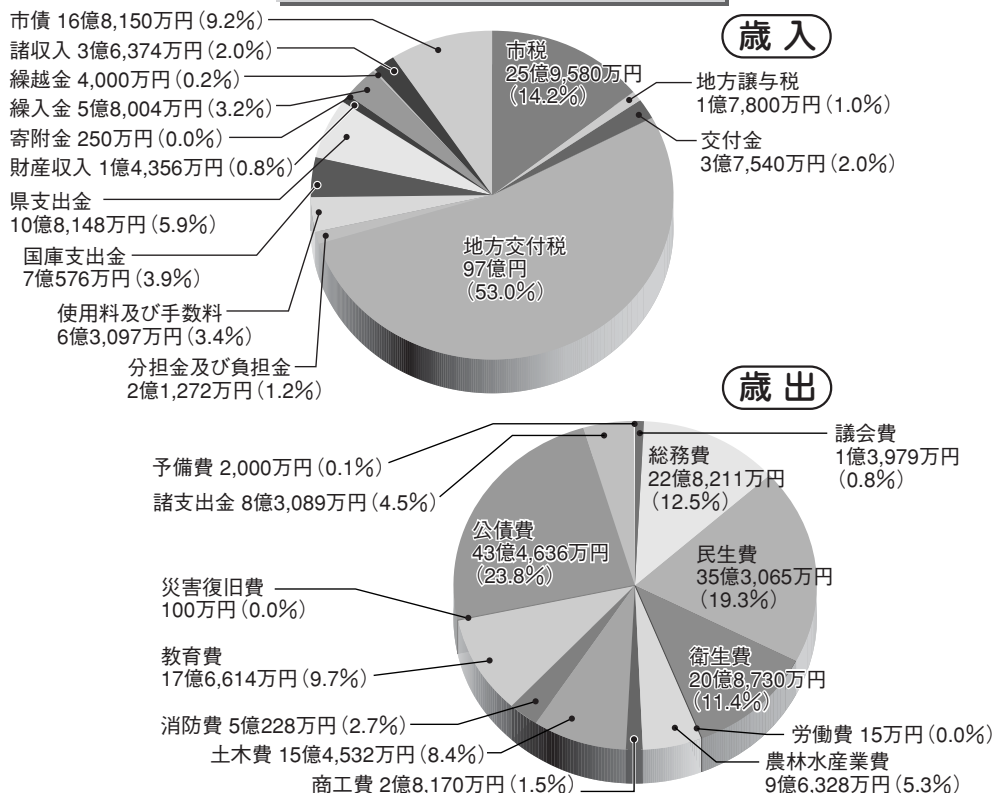
平成21年度予算……………	2～3	常任委員会調査報告……………	11～13
予算特別委員会報告……………	4	組合議会報告……………	14
その他の議案……………	5～6	議会報告会のお知らせ……………	15
一般質問……………	7～10	市民の窓……………	16

# づくり予算可決

第33回定例会が3月3日から3月26日までの24日間の会期で開催された。3月3日には、広瀬市長の平成21年度施政方針、片芝教育長の教育方針を受け、平成21年度一般会計予算案をはじめ議案91件・認定1件・諮問1件・人事案件の同意2件・議員発議4件の議案審議を行った。  
また、3月16日、17日の2日間で12名の議員が一般質問を行った。

一般会計の歳入歳出予算の総額は182億9700万円。市民一人当たりの額にすると65万3628円となる。  
養父市は自主財源が少ない予算であるが、少子高齢化対策に重点を置き、乳幼児医療費の軽減化と高齢者福祉の充実のために優遇措置を取り入れた予算となっている。  
その中でも、公債費(借金)比率を下げるため、繰上げ償還(借金の前倒し返済)を実施し財政の健全化が求められている。  
特別会計と企業会計は別表のとおり。  
各会計予算とも8名の議員で構成された予算特別委員会に付託され、慎重審議の後、いずれも原案どおり可決された。(委員会の報告は4ページに掲載)

## 一般会計当初予算



### ■平成21年度 当初予算の概要

区分	21年度予算額	20年度予算額	増減率
一般会計	182億9,700万円	190億1,000万円	△ 3.8%
特別会計	101億7,215万円	110億4,530万円	△ 7.9%
企業会計	8億5,658万円	6億7,490万円	27.0%
合計	293億2,573万円	307億3,020万円	△ 4.6%

# 平成21年度まち

## 一般会計予算討論の要旨

### 反対討論

◆財政が苦しいということ、次々と補助金を切り下げたおりに高齢者や障害者等の市民生活にも影響が出ている。

◆市が主体となって作り上げてきた各種団体への補助金削減、特に社会福祉協議会への補助金は大幅削減で、合併当時から比べると福祉活動補助金は92%も削減されている。

◆ごみ収集事業は説明なしの一方的な切り下げがなされた。おおよそ作業所ではごみ袋作成費用が250万円も減額した。

◆但馬空港に多くの補助金を支出している。

◆南但ごみ処理施設建設のため造成費や建設費、維持管理費に膨大な負担を強いられる。ごみは市民協力で徹底した分別と減量化でこそ解決できる。トップダウンではない。建設は見直すべきである。

◆合併後補助金は削られ交付税も削減された。当初から合併すれば財政が苦しくなることは判っていたことであり市民を裏切った行為である。市

民に知らせようとしない行政のやり方に怒りを感じる。

◆制度や施策が打ち切られてきた。理由は財政が悪い、借金が多い、公債費比率が高いからというもの。高齢者医療、障害者や母子という福祉の補助金が後退し、各種団体の補助金が打ち切れ苦勞している状況にある。新年度で無駄を省けば市民の暮らしを守る事ができると確信している。

◆南但ごみ処理場の問題は、膨大な経費を使うが安全性について地元理解を得ないまま建設しようとしている。この金をもっと有効に使うならば、市民の暮らしを守るために福祉や医療を守ることができる。

◆市民が元気なまちづくりを進めるために、行革は行いながらも10年後の展望を示すべきである。示さずに各種審議会の結論がすべてとして市の方針・予算を打ち出すのは間違っている。結論を議会と市民が一体となって考えていくべきで新年度予算は賛成できる立場ではないので反対する。

### 賛成討論

◆市民の生活を守りながら持続可能な養父市として発展していくための予算を編成していく場合、実質公債費比率の改善という大きな課題があるが前倒し努力が十分伺える新年度予算であり、更に市民福祉事業も相当盛り込まれていることから評価をする。

◆公債費による財政負担の程度を示す実質公債費比率は指標を大きく上回っていたため借金をする場合に国の許可が必要となるところだった、適正化計画を策定し努力の結果、新年度予算では23・9%に留まるまでに改善されている。

◆事務事業評価や補助金等評価等に見られるように市民の理解と協力を得て諸経費を削減し、その財源で公債費を償還してきた成果であり、厳しい財政運営のヤマ場を越えたと表現してもよい新年度予算である。

◆歳入面から見れば、財政調整基金に依存しない予算で昨年度比7億1300万円の縮

小予算、積極的な繰上償還により実質公債費比率23・9%を達成、財政調整基金の積立5億6460万円など中長期的な財政運営の健全化に配慮され歳出とのバランスをとった財政運営に留意されている点は高く評価できる。

◆歳出面から見れば、高齢者等優待乗車証交付事業等に見られる生活支援と生きがい対策の強化、中小企業雇用維持支援補助金などに見られる企業融資の拡充、防災センター整備事業などに見られる安心安全基盤の充実強化、乳幼児等医療費助成制度などに見られる子育て支援対策の強化、八鹿青溪中学校建設、学校耐震化工事実施設計着手等に見られる教育環境の充実、新たな施策評価制度の導入等に見られる行政改革の推進、そして自主自立のまちづくりを目指す地域自治協議会の設立運営支援等に取組んでいる。

◆新年度をまちづくり元年としてスタートさせる意気込みが伺え、大いに評価し期待をするものであり賛成する。

# 市民主体のまちづくり

市長を先頭に全職員の更なる奮起を!!

平成21年度

## 予算特別委員会

指摘事項及び意見

### 財源の確保

市税の完全収納と積極的な繰上償還・財源確保に努められたい。

### 生活バス路線の確保

高齢者等優待乗車証交付事業との相乗効果、利用者の地域性・利便性を考慮し、負担とサービスの公平化を図り、柔軟な体制で取り組まれたい。

### 緊急時の対応

携帯電話受信位置測定簡易システムの一日も早い整備に努められたい。

### 妊婦・乳幼児等の対応

妊婦健康診査、乳幼児等医療費助成事業は、利用者医師ともに支障の出ないよう十分な体制づくりに努められたい。

### 農業振興

新規就農、担い手総合支援、特産物開発は、現状を把握しながら取り組まれたい。有害鳥獣防除は、新たな対策を検討されたい。



▲予算特別委員会による審査

### 観光産業施策

交流人口 150万人施策は、市と関係者が密接な連携を図り、PRに努め、観光交流人口増に努力されたい。

### 万灯の湯

休止してから指定管理者公募を繰り返している。施設建設の主旨に鑑み、再開に向けあらゆる努力をされたい。

### 介護保険

地域支援の7事業は、利用を促すための制度説明に努められたい。

### 簡易水道・上下水道

新料金体系での徴収は、市民に十分な周知と理解を求め、円滑化を図られたい。

### 氷ノ山国際スキー場

経営健全化に向け、地域と連携を深め、より一層の経営努力をされたい。

# まちづくり基本条例

## 7月1日から施行

この条例は、養父市のまちづくりに関する基本的な事項を定めるとともに、市民の権利と責務、議会及び市の責務を明らかにし、市民が主体的にまちづくりに参加し、市民相互及び市民と市が協働することにより、活力のある自立したまちの実現を図るために、新たに「養父市まちづくり基本条例」を制定しようとするものである。

### 養父市の憲法

地方分権により、養父市も自らの創意工夫と行動でまちづくりを進めることになった。その指針となるのが「養父市まちづくり基本条例」で、市民が主役であることを示した。

### 市民の権利と責務

併せて、他の条例・規則制定にも、この条例を尊重するという、養父市の憲法（最高規範）の性格を明確にするもので、市民の権利と責務のほか、市長（職員）、議会（議員）の責務も明確にした。養父市議会では、重要案件であることから、政策総務常任委員会に付託した。

### 全職員の理解と行動

条例の制定には、公募等による16名の市民委員により、平成20年5月から10月までに

7回開催されたワークショップで、慎重な協議が続いた。12月からはパブリックコメント（市民意見）を募り、それをもとに修正を加え上程された。

付託審議の中で、議会の承認後、4月施行では市民理解を得られるかが議論された。また、市民・議会・市の責務を謳う以上、担当部局だけが市民説明を行なうのでは、最高規範の位置づけが薄れる。全職員が理解して市民と議論を協働する。

### 修正可決

政策総務常任委員会では、条例については「原案可決」としたが、市の全職員の理解と市民説明のため、施行日を「平成21年4月1日」から「平成21年7月1日」に修正することとし、本会議においても修正案が可決された。

## 議会基本条例制定に向けて

### —— 特別委員会を設置 ——

地方分権が進展する中、自主自立した自治体経営の確立を求められている今、養父市議会としても、地方自治の根幹をなす二元代表制のもとであるべき姿を理念化するとともに活動諸原則を定め、議会及び議員の責務を果たすため議会基本条例の制定に向けて調査研究を行うため養父市議会基本条例調査特別委員会を設置するもので、設置期間は、平成21年3月26日から調査終了までの間。

委員長	水野 雅広
副委員長	西村 禮治
委員	瀬原 達夫
	藤原 敏憲
	圓山 浩平
	西谷 昭徳
	深澤 耕司
	巧

## 副市長の選任 不同意

3月定例会に提出された2件の同意案件の審議結果は次のとおり。

### 副市長の選任について

養父市大屋町若杉在任の高橋本明氏を副市長に選任することに同意を求めたい旨の提案がされたが、賛成少数（賛成3、反対12）により、不同意とした。

### 教育委員会委員の任命について

養父市森在任の守本宗純氏を教育委員会委員に任命することに同意を求めたい旨の提案がされ、同意した。（賛成全員）

# 上下水道料金等の一部改正条例

## 議員発議

### 発議第一号

養父市下水道使用料徴収条例の一部改正について

提案である。

■この提案は、負担の公平に反していると思うが、どう考えているのか。

■当初の経緯が違うので、無理やり一本化する必要はない。旧町時代でも統一は難しかった。ある程度の差がついても仕方がない。高い方に合わせるのでは良くない。

■この案は、ずっと負担の公平化が図られない提案ではないか。

■何年間かというとのはい。住民に市の財政計画も説明しながら、納得してもらいながら進めるべきである。将来的に長い目で見れば統一はしていくべきと考える。

■改正案の施行日が、平成21年4月1日となっているが、事務的に間に合うのか。

■4月1日からの施行となると3月31日に一斉に検針をしなければならず、物理的に無理である。システム改修に9ヶ月間かかっており、4月1日に改修するにしても、4

5月に一括納付になる可能性があり混乱する。

■財政に与える影響はどうか。

■収入減になる分、一般会計からの繰入が増加する。よって、実質公債費比率が0.6ポイントアップする。また財政計画の平成27年度18%以下が出来なくなる。

■目的の一つに負担の公平化があるが、そのとおりになるか。

■施設の機器の更新費用も当然財政計画、経営健全化計画に入っている。使用料を充てるか、税金を投入するかの問題である。税金を投入すると、施設を利用しない人からも負担をしてもらうことになり、より負担の公平性が保たれない。

委員審議結果 原案否決すべきもの

本会議 賛成少数により否決

### 発議第二号

養父市簡易水道事業給水条例及び養父市下水道事業給水条例の一部改正について

昨年改正により、旧養父町では約30%、旧大屋町では約40%、旧関宮町では約60%もの大幅な引き上げとなる。

市民負担の軽減を行うために約1億円の負担増を約5000万円に引き下げるために改正するもの。

委員会審査結果 原案否決すべきもの

本会議 賛成少数により否決

## 非核平和都市宣言

憲法に定められた恒久平和の理念を市民生活の中に生かし、非核三原則の遵守により、平和で安全な市民生活を守り発展するため、非核平和都市宣言を決議するものである。

### 非核平和都市宣言に関する決議

緑に囲まれた自然豊かな私たちのふるさと養父市 この豊かなふるさとを後世に残し、平和で安心した生活ができることは、養父市民すべての願いである。

しかし、世界各地では紛争、戦争、テロリズムなどが今も絶えず、核兵器の存在など、私たちの平和な暮らしを脅かすものが世界に満ち溢れている。

特にわが国「日本」は、世界唯一の被爆国であり、多くの尊い命を失った広島、長崎の惨禍を二度と繰り返させてはならない。

よって、私たちは、平和で安全な生活を永遠に守り発展させるため、非核三原則を将来に渡り遵守するとともに、日本国憲法の理念である世界の恒久平和の達成を目指し、ここに「非核平和都市」を宣言する。

以上決議する。

平成 21年3月26日

兵庫県養父市議会

## 一般質問



森本 茂行 議員

## 環境モデル都市を目指せ

**問** 地球温暖化の影響を最小限に抑える事業の取り組みをし、CO2排出削減が必要である。中でも地方自治体の役割が大きいため、養父市モデル都市のまちづくりを進めてはどうか。豊岡市は、太陽光発電装置を設置する個人の住宅に、国の補助に上乗せする形で最高20万円を補助することを決めている。出力4kwの装置だと一般的に280万円前後の設置費用に対し、国と市で合計48万円の補助が受けられる。養父市は太陽光発電補助、国制度の活用をどう進めているのか。

**答** 養父市も環境に優しい自然エネルギー対策にも取り組んでいる。新しいまちづくりに必要なことでもあり、太陽光発電装置の申請があれば、市が上乗せしていく必要がある。今後考えていきたい。

**問** 木質バイオマス等、新エネ施設の誘致によるエコタウンの造成を計画してはどうか。国県の補助制度の活用について問う。

**答** 今後、エコタウン造成については人口3万人の安全・安心のまちづくりを考えていきたい。現在環境問題は、我が国上げての事業なので、養父市でもペレット燃料の有効活用を考え、製造・使用方法など多くの課題もあるが、実用化に向けてまず、公共施設での使用を考えていく。



深澤 巧 議員

## 景気緊急対策について

**問** 不況により市内の事業者は大変な状態に陥っており、今後市民生活にも奥深く影響がでると予測される。生活心配を相談できる「くらしの相談室」を設置してはどうか。

**答** 市民税なども減額の見込みで、滞納額も上昇傾向だ。行革の一方で子育て・高齢者生活支援に重点をおき、市民生活の安心を確保したい。

**問** 市内の工場を訪問すると「私達と同じく身を削ぐ気持ちで行政も取組んでほしい」と言われた支援制度の拡大、零細個人事業者への援助、雇用創出基金の有効な活用などを目的とした「経済市民生活総合対策本部」を立ち上げ、危機感を持つて臨むべきだ。

**答** 地元で創業し、営々と事業されていることに心より感謝している。今後の状況をみて対策本部の設置を検討したい。雇用創出基金は有効に活用する。

## 生活交通手段の確保と集落実態調査について

**問** 交通手段の確保は益々重要になってきている。将来の人口予測を基に、今後5年10年後の地域生活実態が把握できる徹底した調査の実施を提案する。

**答** 生活実態調査は必要だ。今後設置する地域自治協議会で取組みたい。建屋地区等での「バス実証運行」の成果を踏まえ検討する。



藤原 敏憲 議員

## 市民や議会を無視した副市長人事の混乱の責任は市長にある。

**問** 副市長は必要だと考えているが、誰でも、どんな決め方をしてもいいというものではない。市長は副市長を民間から選任したいと公約していたが、なぜ議員から選任しようとしたのか。

**答** 議員は行政関係者ではなく、民間だと考えている。

**問** 議員は誰が考えても行政関係者ではないか。市民感覚からずれている。また、選挙後わずか3ヶ月の議員から選任することで議会や市民が理解すると考えていたのか。

**答** 選任する高橋前議員は、私にない素晴らしいものをもっており、副市長にふさわしい人である。理解を得たい。

**問** 市長の考えは市民や議会を冒瀆するものだ。このままでは4年間、議会は1名減の17名となる。どのように考えているのか。

**答** 結果として17名になったもので、深く考えてはいないし、意図的なものではない。

**問** 市長の、誰でも提案したら議会も市民も理解してくれるという安易な考えが市全体を大混乱に陥れたものだ。反省しているのか。

**答** 今回のことで心配をかけたことを反省している。理解を願いたい。

一般質問



田中 久一 議員

関宮総合保健福祉センターの施設管理について

**問** 市の当初案では、ふれあいの郷のデイサービス部分のみ社会福祉協議会に指定管理させるということであったが、この施設は「デイサービスセンター棟」と「老人福祉センター棟」及び「ふれあいルーム」を一体的に使用してこそ機能が発揮できる施設である。また、一体で使用してこそ本来の目的である福祉事業及び介護予防事業の拠点として機能できる。玄関を入れて右側のみ指定管理させて左側は休止するというとんでもない案が出たのはなぜか。

**答** 財政状況が厳しい中、利用率が低いので廃止・休止するという方針を出したが、社会福祉協議会の収益事業である介護予防・介護サービス事業が担保されたことで運営を委託し、エイドホールへの移転計画は取りやめた。

**問** エイドホールに移転を考えた理由の一つが、光熱水費が高いということであるが、移転費と改装費を考慮した試算をしたのか。

**答** 試算はしていないが、エイドホールは交通の便が良いと考えた。

**問** ふれあいの郷は築15年、エイドホールは築40年で、耐震化とアスベスト、老朽化等の問題がある。指定管理者制度では、既指定の場合は5年間がなぜ3年間になったのか。大規模改修は市で行うのか。

**答** 期間については今後の社会福祉協議会の取組みによる。改修費は30万円を超える場合と構造部分は市の責務で行う。



西谷 昭徳 議員

企業誘致について

**問** 北近畿豊岡自動車道の完成が平成23年度と聞いている。地権者との交渉はスムーズに進んでいるのか。また、市長の公約にトップセールスを掲げられているがどうなっているか。

**答** 企業誘致は養父市にとって大変重要な課題となっている。自ら先頭に立って積極的に努めていきたい。地権者との交渉は順調に進んでいる。

**問** 本年、合併5周年記念でプレミアム商品券を再度発行の考えはないか。

**答** 養父市にとって商工会の活力は大きいので、効果次第では追加的なことも考えられる。

**問** 関西一高い水ノ山に湧き出る水は最高の資源である。この名水の特産品として生産、販売する企業誘致と専門の職員を配置する考えはないか。

**答** 水ノ山の名水として取り組んでいただけの企業を当たってみたいが、専門職員の配置は考えていない。

**問** 空き家・空き店舗が増え、限界・準限界集落が市内全体で50%近く占めている。何か手立ては考えているのか。

**答** この解消は大変難しい。行政として定住促進条例を活かした、U・イターン者の受け入れ対策を検討して最大限努力していきたい。



瀬原 達夫 議員

温泉施設について

**問** 養父市内3か所の温泉の将来展望と、万が一経営が赤字になった場合の補填、処理等健全化に向けての想定事項等があれば聞きたい。

**答** 原則、源泉は市の責任管理である。経営については自己責任であり、赤字補填等は行わない。

**問** 「万灯の湯」の再開と、国道とのアクセス、また経営指導などについてはどうか。

**答** 向三宅入口の改修については、21年度に着工予定である。経営指導については、イニシアチブは取るべきではないと思う。再開については、新年度に二次公募を予定している。

南但広域行政について

**問** 南但広域で、朝来市と養父市共同で公共サービスの高度化及び効率化に対応している現状を聞きたい。

**答** 現在行っている事業は、体育施設の運営、住民基本台帳、国民年金、上下水道事務等の電算業務また、新ごみ処理施設の建設計画等である。

**問** 今後の広域行政の取組みに考えていただきたいのが、朝来市と養父市の医療機関の統一である。これには高い大きな壁があると思うが、是非、両市民のスピーディーな安心と安全確保のため検討願いたい。

**答** 南但統一医療体制は、今後の最重要課題であると考えている。



## 一般質問



竹浦 昭男 議員

**ごみ問題は市民の協力で解決できる。南但ごみ処理施設の見直しを**

**問** ごみ問題は市民の皆さんと市当局が協力してこそ解決できる。可燃ごみ、不燃ごみ、その他のごみなどがどれくらい廃棄されるのかを分析することが第一であり、どのようにして減量していくのか方針を明確にし、市民の協力を得ることが大事である。先進地の広島市では、市民のそれぞれの分野の代表で検討委員会を立ち上げ、2年間の協議で「ごみゼロ宣言」を発表し、ごみの減量、リサイクル資源化などの方針を具体的に示し、市民との協力で大きく成功的に進めているが、どのように考えているのか。

**答** 広島市は約30年前からごみの減量化、資源化に取り組んでおり、見習わなければならない。養父市はまだまだ進んでいない。これから具体化する。**問** 建設費が80億円（養父市は40億円の負担）と莫大な南但ごみ処理施設の建設は見直すべきではないか。第一に、バイオマス十焼却施設で15年間の養父市と朝来市の実質負担は約46億円である。第二に、リサイクル施設の建設費は23億円と非常に高くつくこと。第三に、耐用年数は25年間で、年間の維持費は4億円。第四に、高い煙突からダイオキシン類、重金属類がどこまでも飛散する。第五に、一日百台の運搬車でCO2をまき散らす。どこが安全な施設なのか。

**答** バイオマス方式は環境にやさしい施設である。良い処理方式を選んでいただいたと思うている。



水野 雅広 議員

**給食センター建設について**

**問** 平成18年、学校教育振興推進委員会より給食センター建設についての答申がなされている。行革により事業着手が遅れているが今後の方向性は答 ウェット方式からドライ方式への変更が急がれているが、答申の通り一施設での検討をしている。合併特例債の利用できる時期に検討をし建設していききたい。八鹿給食センターの借地契約については更新をお願いしている。

**問** 早期に検討委員会等立ち上げ、給食センターの詳細協議を始めるべきと思うが。

**答** 時代にあったセンターに向けて努力していく。

**「ふれあいバス」の減便について**

**問** 「ふれあいバス」のあり方について地元住民との意見交換の機会をもったが、方向性については何の連絡もないまま、今回土曜日の運休と終着地の変更を行うおとししている。考え方を見直すことはないか。

**答** バスの重複路線と利用度を精査して改正した通学には支障のないように従来の方法で行いたい。が、経費の面と利用度から土曜日を運休とした。ご理解いただきたい。



勝地 恒久 議員

**地域自治協議会**

**問** 既存の自治会や区長会、校区公民館等の組織に加えて、新たに地域自治協議会が組織されようとしているが、期待する役割、権限や責任は何か。市民はどう関わっていくのか。

**答** 地域のことは地域で解決していくことが大切だと考えている。従来の区の行政はそのまま継承していただき、校区単位での組織を包括して地域自治協議会の中で運営していただく。部会制とし区長会、民生委員活動、スポーツクラブ、地区公民館等も下部組織として活動していただく。予算は1地域に600万円程度を交付し、常勤・非常勤職員の人件費、運営費、将来的には現補助制度の運用も行っていただくことを想定している。

**問** 青溪中学校跡地への企業誘致交渉は進んでいるのか。空き校舎状態が続いた場合の維持管理費用はどうなるのか。

**答** 跡地利用については定期的に地元と情報交換を進めている。希望事業社の現地案内も行っているが、不況下の中で停滞している。空き校舎の管理態勢は、地域の社会教育施設の一環として維持管理していくことを考えている。

**問** 道徳という教えの部分を先人に学び、人づくりに資することが今必要ではないか。多くの郷土の先人を顕彰する日を創設する考えはないか。

**答** まちづくりはひとづくりであると考えている。十分検討していきたい。



田村 和也 議員

公務員の給与・労働条件について

**問** 公務員の給与・労働条件は、それぞれの社会の情勢に応じて対応すべきでは。

**答** 地方公務員法に定められているものである。今後の流れを見て適正な評価をしていく。

**問** 市税に対する職員に係る人件費が大きな問題ではないか。

**答** 職員の適正化計画を行っている。  
**問** 一般会計の中で6300万円人件費が増えたのはなぜか。

**答** 職員の削減もあったが、定期昇給や、退職金負担金がある。21年度予算で2000万円強の特別負担金、公務員の一般管理分負担金の中で加わってくる。

**問** 大阪府の橋下知事が発表した中に、退職手当カットに踏み込んだとある。養父市もカットに取

**答** 状況を見ながらその都度判断したい。

**問** 「役所勤めなら安心」主要自治体で4人に1人を占める非正規職員の場合、そんな安定とは無縁

**答** 人件費については適正である。国の非正規職員の給料についての指針からみても適正である。

**問** 待遇改善と同時に正規職員への道を開くべき

**答** 職員採用規定による任用しかない。

**問** 地元企業から「個々の施策はともかく、企業同様、身を削ぐ気持ちで取組め」と指摘された。職員の意識改革の進捗度は。

**答** ありがたいご提言で、危機感をもってあたる意識改革は難しいことだと実感している。どう変わった、というところまでは申し上げられないが、職員も分かってくれつつあると思う。

**問** 4月から「まちづくり基本条例」を施行するようだが、市民に受け入れられていると思うのか。

**答** 他に類を見ない素晴らしい条例だ。市民に十分馴染んでいないところもあるが、まち協等地域での取組みもあり、市職員も実施に向け努力するし、市民理解が進む中で受け入れられると思う。



西村 禮治 議員

広瀬市政の姿勢を問う

**問** 公債費の適正化計画、実質公債費比率が厳しい状況にあるが、行財政改革で改善が見られる。26年度には18%以下をめざす。

**問** ①小学校の外国語活動で、総合学習が削減されるのではないか。②学習の地域拠点づくりとまちづくり基本条例の相互作用は。

**答** ①中学校への導人的な意味がある。21年度から約20時間を当て、23年度の完全実施に備える。②地域自治協議会発足に社会教育分野で絡み、教育・文化面でお手伝いしたい。

**問** 予算説明で、「少し陽が差しかけてきた」というのが、合併10年後、地方交付税は合併算定期間の満了となるが。

**答** 梅谷前市長も医師確保に奔走されたことを記憶している。また、21年度は妊婦健康診断の拡充と、乳幼児(6歳以下)の医療費無料化を設けられているが、せっかくの事業が空振りにならないか心配している。地域住民が安心できる体制づくりに努めると、施政方針やマニフェストに掲げられている市長の考えを聞きたい。

**問** 過日の八鹿病院からのFAXや、新聞報道で小児科医が6月末まで1名、7月から常勤医不在になることや、出産も現在全体の3割を占めている「里帰り出産」も当面断ることなどが分かった。このことは、平成18年にも同じような事件が発生したが、その時は病院関係者のご尽力や、住民の皆さんの熱意で何とか事なきを得た。

**問** どうなる八鹿病院は？

**答** 過日の八鹿病院からのFAXや、新聞報道で小児科医が6月末まで1名、7月から常勤医不在になることや、出産も現在全体の3割を占めている「里帰り出産」も当面断ることなどが分かった。このことは、平成18年にも同じような事件が発生したが、その時は病院関係者のご尽力や、住民の皆さんの熱意で何とか事なきを得た。

**問** 梅谷前市長も医師確保に奔走されたことを記憶している。また、21年度は妊婦健康診断の拡充と、乳幼児(6歳以下)の医療費無料化を設けられているが、せっかくの事業が空振りにならないか心配している。地域住民が安心できる体制づくりに努めると、施政方針やマニフェストに掲げられている市長の考えを聞きたい。

**答** 大変な問題である。医師確保のため、私もトップセールスで行こうと思っている。現に豊岡病院との連携も必要なので、豊岡市長とお会いし、協力の要請もした。また、鳥取大学の医学部長とも医師確保の話をした。全体として医師の不足は病院・診療所・開業医の皆さんも補完しあえるシステムづくりを考える必要があると思うし、但馬全体での協同の動きも考えねばと思う。そうすること

**問** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。

**答** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。

**問** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。

**答** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。



西田 雄一 議員

どうなる八鹿病院は？

**問** 過日の八鹿病院からのFAXや、新聞報道で小児科医が6月末まで1名、7月から常勤医不在になることや、出産も現在全体の3割を占めている「里帰り出産」も当面断ることなどが分かった。このことは、平成18年にも同じような事件が発生したが、その時は病院関係者のご尽力や、住民の皆さんの熱意で何とか事なきを得た。

**問** 梅谷前市長も医師確保に奔走されたことを記憶している。また、21年度は妊婦健康診断の拡充と、乳幼児(6歳以下)の医療費無料化を設けられているが、せっかくの事業が空振りにならないか心配している。地域住民が安心できる体制づくりに努めると、施政方針やマニフェストに掲げられている市長の考えを聞きたい。

**答** 大変な問題である。医師確保のため、私もトップセールスで行こうと思っている。現に豊岡病院との連携も必要なので、豊岡市長とお会いし、協力の要請もした。また、鳥取大学の医学部長とも医師確保の話をした。全体として医師の不足は病院・診療所・開業医の皆さんも補完しあえるシステムづくりを考える必要があると思うし、但馬全体での協同の動きも考えねばと思う。そうすること

**問** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。

**答** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。

**問** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。

**答** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。

**問** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。

**答** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。

**問** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。

**答** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。

**問** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。

**答** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。

**問** 子育てや出産、すなわち人口増につながるものであり、このような体制づくりは何としても必要なことだと思っている。

政策総務常任委員会

事務事業評価の調査について

この評価制度の特徴は、①

市民評価を導入し市民の意見を反映させる、②効率性の評価を数値化するために費用便益の考え方を導入する、③評価結果に合わせ市長の見直し方針を示す、④評価結果を予算編成に反映するシステムを整備するものである。

多数の市民の意見を反映させる仕組みについては、まず職員が自己評価をし、市民評価、その両方を踏まえて市長



▲市民による事務事業評価を実施

が最終判断をするという制度となっており、市民全体に広げて議論をするという考えではない。

市民評価において、担当職員の自己評価がないと指摘があるが、市民がどの程度便益を増したのか、問題が解決されたのかという着眼で仕事を進めるよう、担当部署への指導をしっかり行うべきである。

人事評価制度は、成果として予算の縮小、事業の抑制、合併格差が整理できつつある。今後はスクラップ・アンド・ビルドで新規施策枠に取組む姿勢を明確にしていく必要がある。

市長の総合評価でC・D判定については、平成20年度中に進めるとあるが、実現には困難な課題もあり、方針どおり進むという保証はない。短期間に実現していく責務を職員は負っている。

〈まとめ〉

行革に取り組んでいる最中であるが、市民が楽しみ、幸せを感じ、養父市に住んで良

かったと言えるような、市民が元気になる施策展開することを養父市民は期待している。4年間の事務事業評価制度を検証し、新年度予算への適切な反映と市の総合計画の見直しを通じて元気になる新規施策の展開を切望する。

まちづくり基本条例について

この条例は養父市のまちづくりの基本となるものであり、他の条例、規則の制定や改廃及び制度の整備を行う場合には、この条例に定める事項を最大限に尊重しなければならないと位置づけられ、養父市の最高規範条例である。



▲市民委員によるワークショップを開催

条例案の市民啓発については、まちづくり条例そのものを多くの市民が知らない。作成の過程において市民意識を高める手法が必要で、地域局や区長会を巻き込んで議論することがまちづくりに生かされてくると思われる。今後は、条例案ができた段階での説明会や、学校教育で子供から家庭の中に啓発していく考えも持っている。

条例制定の理解促進については、区長会等に説明をしてきたが、更に理解を深めていく必要がある。また、総合計画の見直しを控え、職員の理解も欠かせない。

地域で課題を解決する、地域自治協議会の仕組みが条例で謳われている。今後、自治協議会組織を立ち上げて地域課題に取り組み、自主的解決に向かうというモデルを見せ、3年間で全市展開をさせるが、平成21年度は、4地区で自治協議会組織を立ち上げる方向である。

条例と市民憲章との関係については、条例の中の5つの基本理念が市民憲章にあたるものと考えている。

〈まとめ〉

この条例は、養父市のまちづくりに関する理念を定め、市民の権利と義務及び議会・市の責務を明らかにし、市民の主体的なまちづくり参加と、市民と市が協働することによって、活力ある自立したまちの実現を図ろうとするものである。この目的やそのための行動原則を市民と市が共有することが大切で、とりわけ主体の市民への啓発と理解を深める議論と場を持つことが必要である。



▲ワークショップで条例案を検討

## 文教民生常任委員会

文教民生常任委員会では、建設中の(仮称)八鹿町統合中学校の進捗状況を視察した。また2月17日の臨時会で付託された「介護従事者処遇改善臨時特例基金条例の制定」案件は、審査結果を本会議に報告し、可決された。

### (仮称)八鹿統合中学校建設工事の進捗について

(仮称)八鹿町統合中学校建設工事の概要と進捗状況について説明を受けるとともに、現地調査を実施した。

仮入校に向けて工事が順次進められているが、一月末現在の進捗率は、全体工事費の約30%となっている。

平成20年当初、原油価格の影響等で資材が高騰しており、



▲(仮称)八鹿町統合中学校建設工事の進捗状況を調査(1月26日)

昨年夏以降鉄骨の価格が下がってはいるものの下がり幅が少ない。そのためどれだけ資材が高騰したか現在積算中であり、単品スライド(請負代金の変更措置)を採用し、平成21年度に契約変更をする予定。

その財源は起債にするのか、一般財源とするのかは現在検討中である。また、開校後の生徒の安全面についても調査した。

限られたスペースであり、野球、ソフトボール及びテニスなどの部活動での危険性は、従来の配置からテニスコートを外しており、現状より危険性は少ないものと思われる。

また、兵庫県のある林が隣接しており、今後最小限の落石防止等の工事が予定されているが、安全面等には十分考慮することが必要である。

現在、開校に必要な事項について審議及び協議をする組織として「八鹿町統合中学校開設準備委員会」を設けているが、制服の選定作業にかかっており、今後は校歌の制作なども検討作業を進めている。

今回の調査で、工事費及び工期の変更など、重要案件については常任委員会へ早い段階で報告するよう指摘した。なお、工期を平成22年3月25日に変更しているが、平成22年4月開校に向けて万全の体制で臨むことが求められている。

### 介護サービス等の現状について

健康福祉部より、介護保険事業の状況として、認定者数、給付費の状況、介護保険の徴収状況等の説明を受けた。

高齢者が要介護状態に陥ったり、状態が悪化することのないように維持するとともに自立した生活を確保するため地域の実情に即した、地域支援事業を行なっている。

介護保険事業は、65歳以上の第1号被保険者のうち、約八割が介護認定を受けない元気な高齢者であり、介護保険料の大幅引き上げには不満が出るため、十分検討するべきである。

現在、認知症デイサービス、グループホームが新設されているが、介護保険料に影響が生じることは明らかである。介護予防事業を充実し、事業効果を上げることが必要である。

事業推進にあたり、今後も、養父市社会福祉協議会に委託する事業など、行政と社会福祉協議会が、今以上に緊密な連携を図る必要がある。

介護保険被保険者数及び要介護(支援)認定者数(平成20年12月末現在)

	被保険者数	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	認定者数
第1号被保険者	8,883	114	287	246	290	275	241	244	1,697
65歳～75歳未満	3,550	9	23	20	21	20	14	25	132
75歳以上	5,333	105	264	226	269	255	227	219	1,565
第2号被保険者	8,919	0	9	1	6	3	4	7	30
合計	17,802	114	296	247	296	278	245	251	1,727
平成18年3月末	18,197	369		552	240	198	207	240	1,806

## 産建環境常任委員会

### 事業所ごみの収集について

平成21年2月4日(水)「事業所ごみ」の収集について調査を行った。

4月より「事業所ごみ」の収集については、市の許可業者が行うことになっている。このことについて昨年、対象



▶事業者への説明会を開催

となる事業者への説明会が商工会支部ごとに、団体等の要望により実施された。各会場では、事前の説明が不十分であったこと、大幅な負担増になること、大変景気が低迷しているこの時期の変更は直接経営を圧迫するものであり、実施時期の見直しなど不満の声が多数出された。また、商店街などからも見直しの要望が出された。

その結果、小規模排出事業者については、要望を勘案し、条例規則の改正は行わず、当分の間を明記した取扱要綱を定め運用することとなった。このことから小規模事業者とは、収集日に1袋(45リットル)以内で、重量が6kg以下の排出量であること。そのほか、民宿などのように一時期のみ大量に排出する事業者は、その時期は対象

外として、許可業者に依頼するか自己搬入する。

「可燃ごみ」については、

①家庭ごみと区分するため、可燃ごみ業務用袋を使用し、1回につき、1袋のみ排出。  
②家庭ごみと事業所ごみは混合せず、分別をはっきりさせることとし、家庭ごみの分別方法に従う。

③ごみステーションの管理者(区長等)に、事業所ごみの排出許可を受け排出する。

「その他の不燃ごみ、大型ごみ・金属類」については、大量に排出される場合は、産業廃棄物として適正処理する。一般廃棄物は、許可業者に依頼するか自己搬入する。

少量(家庭から出る程度)の場合は、従来どおり近くのステーションに排出できる。ごみステーションの管理者(区長等)の排出許可を受け、家庭ごみと同様に、計画収集の収集日のみ行政回収する。

資源ごみ(びん、カン、新聞、雑誌、段ボール、ペットボトル)については、

①大量に排出される場合は、許可業者に依頼するか自己搬入する。

②少量(家庭から出る程度)の場合は、従来どおり近くのステーション(拠点回収場所)に排出できる。家庭ごみと同じ分別方法である。  
区の指定場所(拠点)に排出する。ステーションの管理者(区長等)の排出許可を受け、計画収集の収集日(月1回)のみ排出できる。

〈まとめ〉

今回の事業系一般廃棄物の行政回収の取り扱い見直しについては、早急に排出事業者及び事業許可業者に十分な説明を行うべきである。並行して、商工会・区長会との連携を図り、理解を得られるように努め、4月以降の業務の円滑化を図る必要がある。



▲現在の琴弾クリーンセンター

南但広域行政事務組合議会報告

公立八鹿病院組合議会報告

新ごみ処理施設 平成25年稼働へ  
本格工事に向け 平成21年度予算案可決

南但広域行政事務組合第96回定例会が、平成21年2月18日から3月16日までの会期27日間の日程で開催された。

主な議案は、平成21年度の一般会計予算案（歳入歳出4億7500万円）の審議。平成25年4月稼働計画予定のごみ処理施設整備について、用地造成工事費2億4090万円などが計上された。

会期中に南但広域ごみ処理計画特別委員会も並行して開催され、最終日にごみ処理施設の調査に関する中間報告書が提出された。内容は

- ①ごみ処理の処理方式は「バイオマス+ストロカによる焼却方式」を妥当とする。
- ②施設場所は朝来市高田地区を建設予定地とし、今年度も引き続き建設周辺地区をはじめ広く市民への理解、協力の促進を図ることが肝要。
- ③リサイクル施設については施設内容、規模等については

今後の重要な調査案件とする。というものであった。

また、定例会2日目の3月2日には3人の議員が一般質問を行った。養父市議会では、竹浦昭男議員と瀬原達夫議員が、南但ごみ処理施設について、それぞれ質問を行った。

- ・ごみの減量化推進の重要性
- ・施設の維持管理費が莫大になる危険性
- ・周辺地区の同意の徹底
- ・施設建設の初期投資及び予想される運営経費の精査
- ・リサイクルセンターの計画と投資コストの妥当性

3月16日の本会議において一般会計予算案は賛成多数で可決された。

〈12月定例会〉

平成20年12月26日（金）

会議の内容

池口管理者報告

自治体病院を取り巻く環境は、依然として厳しい状況にあり、大きな原因は医師不足による経営悪化であり、当院も例外でなく医師不足に悩まされており、現在も懸命に医師確保に当たっている。厳しい環境であり、地域の皆様の命を守り、健康を守るのには根源的な目標であり、それを直接的に実施しているのが我々、公立病院である。それを放棄することは決して許されるものではないと考えており、今後も健全経営に向かい、全職員一丸となって取り組まねばならないと考えている。

10月、11月は県外からの県議会議員、市議会議員の視察が相次いだ。目的は、当病院の保健・医療・福祉を根底に据えた地域密着の医療、また医師不足環境の中での当病院が先進的に取り組む院内助産制度、総合診療部等の視察であった。

あった。

12月3日から5日までの3日間に渡り、7名の評価委員による各部門の徹底した点検調査が行われた。講評では、各部門で大変レベルの高い病院であるとの評価を受けたが、同時に今後、更に取り組んでいく点も多く指摘された。

岩井院長報告  
病院は、広報ということに力を入れてきた。またホームページもかなり充実したものができたのではないかと思う。こういった中、今年はマスクの取材が多く、同時に病院視察も多い状況であった。11月に自治通信から、八鹿病院が取り組んでいる医療の現状について取材があり、特に悪条件下での様々な取組について教えてほしいということであった。

- ・ 議案第10号  
公立八鹿病院医師修学資金貸与条例の一部改正  
原案のとおり可決
- ・ 議案第11号  
公立八鹿病院組合使用料及び手数料条例の一部改正  
原案のとおり可決
- ・ 議案第12号  
平成20年度公立八鹿病院組合病院事業会計補正予算（第1号）  
原案のとおり可決

近藤老健施設長報告

老人保健施設では平成4年の開設以来、在宅療養支援に力を入れているが、認知症にも力を入れており、今年も全

一般質問

医師不足についての取組や病院改革プランの策定についてなど、2名の議員の質問があった。

市民の皆さんに信頼される養父市議会へ

# 議会報告会を開催します

3月議会の報告と市民の皆さんからのご質問・ご意見をお聞きします

市民に信頼され、わかりやすく、開かれた議会を目指すため、3月議会定例会の主要な審議状況を中心に議会報告会を開催いたします。

いずれの会場も 開会は午後7時30分からです。

## 1班

平成21年5月19日(火) 八鹿公民館  
平成21年5月21日(木) 関宮エイドホール

### 報告議員

西村 禮治	水野 雅広
田中 久一	深澤 巧
森本 茂行	田村 和也
竹浦 昭男	西谷 昭徳
議長	北尾 行雄



- ◆ご都合の良い会場へお出かけください。
- ◆議会だより第21号(5月15日発行)をご持参願います。
- ◆お誘い合わせの上、ご参加ください。

## 2班

平成21年5月20日(水) 養父公民館  
平成21年5月22日(金) 大屋市民センター



### 報告議員

西田 雄一	圓山 浩平
勝地 恒久	藤原 敏憲
吉井 稔	瀬原 達夫
寺田 耕司	安井 義隆
議長	北尾 行雄



別宮 岡 節子

明石から田舎に嫁いで早40年余りになり、あの当時から考えると随分変わりました。

関宮町から養父市になり、道路も良くなりありがたいと思っ

病院の小児科や産婦人科の問題が出ていました。小児科がなくなり、里帰り出産などができないとのことで、私たち市民にとっては、とても不安です。

これから養父市に嫁いでこられる若いお嫁さんたちが、安心して出産や子育てができる、住みやすい養父市にしてほしいと思っ



高中 安原よしの

養父市高中地区は、養父市場より4 km離れた山あいにある緑豊かな村です。昔は25戸の戸数でしたが、現在は16戸40人余りと、過疎の村になってしまいました。私たちの財産である自然を

物産組合を発足し、昭和62年12月に「高中そば処」を開店させました。そば、山菜料理、かきもちなど全て手作りしているのが私たちの誇りです。

年間1万人のお客様が遠くは京阪神からも来ていただけにようになり、私たちに生きがいを与えて下さいます。市内の方もぜひ一度は高中そばを食べに来て下さい。

### 市民の窓



八木 八木 貢  
八鹿町上 松田 貢

世界的な不況が襲う中、今後の生活に不安がよぎります。医療・雇用・少子高

齢化・福祉・社会保障などの後退や衰退がとりざたされる中、とりわけ養父市において、医療問題がここ数年深刻なようです。

特に産科・小児科の医師不足は少子化にも影響があり、医師確保に全力を注いでいただきたい。その他の諸問題も山積みで、良い処方箋があるといいのですがなかなか：

だからといって先延ばしできないものでもあります。私たち住民が安心して暮らせるやさしいまちづくりをよろしくお願いします。



横町 大屋 誠一  
藤原 誠一

養父市が発足した当初は、私が住んでいる大屋町内でも地域局庁舎の建設、小学校統合による新校舎及び体育館の建設、また平成16年の台風23号被害の復旧工事等々の公共事業も多く行われ、外見は活力ある養父市

でした。ところが5年が経過した今、市の苦しい財政がクロージアアップされ、養父市が助成する重要な事業にも集約縮小されるものもあり、本庁から遠く離れた地区は利便性がますます悪くなります。

広い養父市全体をすべて平等は難しいと思いますが、地域格差のない市政の推進を期待します。

### 編集後記

5月の空に初夏の風が吹く頃となりました。

予算を中心にした3月定例会が終わりました。今定例会では、副市長人事案件や議会基本条例調査特別委員会の設置など議会・議員のあり方が問われる議案も審議しました。

議員視察で大阪の熊取町議会の「議会報告会」の調査に参加しました。全国的にも先駆的な取り組みとして評価されていますが、最初は住民の参加が4名。あるいは、住民の厳しい質問にハリのむしろに座らされる云々、という状況から始まったそうです。

特に印象に残ったのは「報告会」と「議会広報」は議会と住民をつなぐ最良のツール（道具）だ」というお話です。

5月19日から初めての議会報告会を開催します。試行錯誤のスタートになるかも知れませんが、開かれた議会への第一歩にしたいと思います。